

## 第19回研究大会（福岡）雑感

昨年横浜市では、後援ならびに助成についてお願いする所管がギリギリの3月に決定したので、それから本格的な連絡、打合せを行ったのでずい分気をもんだ。今回はかかることのないようにと、60年11月1日付で福岡市長に前もって公文を出しておき、11月7日に出向した。

市側との打合せは、富岡貢氏の懇意な前市会議長の司会で関係局長と私共とで協議し、市側は会場、宿舎その他に便宜をはかってやるとのことで、誠にスムーズに事が運び気をよくした。

富岡貢氏は胃の手術をされたとは思えぬほどの元気さ、同様の手術後の野津至位氏のほうが心配で、お二人の御身大切さを考えて中島重徳氏、中村光男氏に手足となって動いてもらうようお願いした。

本年2月8日中村光男氏より、富岡さんは7日に逝去、本8日告別式との電話におどろき、早速弔電をうち供花その他の打合せをし、会長および故人と親しかった会員に電話で通報、とりあえずその処理をした。

ついで富岡氏の後任に中島重徳氏を、相談役に野津氏をお願いすると同時に、市のほうにこのてん末を通知して、会場その他について再度お願いした。しかし市側は何一つ動いていないとのことで、中島・野津両氏にすぐさま会場と宿泊所の予約をお願いしたが、時すでに遅く、かろうじて2カ所をとることができた。

市は4月の人事移動で連絡の窓口は新任の課長に変わっており、改めて一定の様式の後援願いを提出せよとの指示。ついでにと県にも提出したところ両者とも承知はしてもらったが、市にお願いした見学の福祉バスはもとより、祝辞ももらえそうにない空気であった。そこで秘書課の係長に各地におけるこれまでの経過と今回の状況を話したところ深く同情、関係部局に連絡交渉されたが時遅しとのことだったので、祝辞なりともお願いした。

今回の大会準備を機に発足した、福岡県ホテル研究連絡会の皆さん、そして富岡さんのご子息には並々ならぬご配慮をいただいた。又気がかりだった見学バスは野津氏のお骨折りで解決し、事務的にもかかってない複雑で多くの手間を費やしたがなんとか開会を迎えることができた。

なお、開会にあたって急抛県・市当局から祝辞とご厚志をいただいたので、すぐその場で披露した。

**座談会**：5月23日(金)19時、開会。かつてない多数の参加者で熱心な質問の続出とその応答が制限時刻ギリギリまで続いた。

**研究大会**：本大会はホテル護岸の見学を期待されたのか、会員の出席は80余名、地元の出席者を加えると120名に達した。今回はホテル護岸工法を巡っての研究発表が多く、かつ小倉地区の見学があるので、これらについての現況と今後のあり方について討議しておく必要があると考えられたので、古賀則光・緒方信一・山岡 誠の三氏に講師をお願いし、筆者の司会で約1時間半に亘って現況と問題、今後のあり方について討議した。

**総 会**：記念誌の発刊については、発刊の趣旨、内容、予算面など具体的説明をしたが、意見

はまちまちで保留といった空気を強く感じた。(後述)

その他会員バッチの作成、明年は役員の任期が切れること、公的機関、事業所などの加入者の年会費について。明年度の大会開催地が広島に決定し、川本春雄氏の挨拶があった。

**見 学**： 5月25日8時30分九州電力のバスで出発。故高岡貢氏宅に伺いまづ仏前にお参りしてから、故人ご自慢の泉水(池)飼育をご子息の説明で見学、ついで室見川一帯の生息河川を見て北九州に向い、九州電力新小倉発電所に立寄ってLNG専焼発電施設を見学。そのあと最後の見学地北九州市小倉地区のホテル工法護岸と飼育川の見学を終え、小倉駅前解散した。

今回の見学については、バスを仕立ていただいた九州電力のご好意ならびに小熊野地区コミュニティ委員会の方々のご配慮に対し、厚くお礼申し上げます。

(村 上)